

文：岡本 悠

メリーナとの別れ

唐突な別れであった

7か月くらいの関係である

会ったのは1回だけ

メリーナとは

仮名であるが

フィリピン人の

30代の

女性である

顔は忘れてしまったが

豊満な胸をしており

右手首に

タトゥーをしていた

明るい感じのタトゥーだ

俺は、

当時

大真面目に

結婚をしたいと

考えていた

だから、

メリーナに

「結婚しよう」と言うと

メリーナは

照れていた

電話番号を教えてもらい

翌日

+メッセージが来た

しかし

メリーナの欠点を挙げるならば

返事が遅いことだった

だから、

俺は

もう、返事が来ないと思って

違う恋に走った

しばらくして

メリーナから

連絡が来た

二股状態になった

俺がそのことを

+メッセージの

ローマ字で説明したが

「がんばってね」

と

返事が来た

次第に

俺は

もう1つの恋も

あっけなく終わった

だから

また、

メリーナに連絡した

しばらくして

メリーナは

店を辞めたとっていた

俺も

ロクに

仕事はしていなかった

何度

電話や

+メッセージをしても

繋がらなかつたり

返事が続かないことが

多かった

今までの女性史上

一番

遅いテンポだった

俺も

これは

メリーナのペースだから

慣れようと

頑張った

メリーナは

速水もこみちが

好きだと

言っていた

メリーナの

お姉さんは

もちろん

フィリピン人だが

旦那は

日本人らしかった

メリーナは

日本語があまり堪能ではなかった

だから

会った時も

もう1人の

フィリピン人の女性を

介して

会話していた

+メッセージでも

日本語を

よく

間違えていた

まあ、わかる範囲の間違いだから

問題なかったが

クリスマス

謝肉祭も

近づいていた

俺は

クリスマスに

縁がなかったから

今年も

どうせ

駄目だろうと

思っていた

11月頃から

クリスマスのことを

匂わせたが

まずは

いきなり

クリスマスで会うより

1回お茶でもして

会っておこうと思い

12月に入って

+メッセージを送った

日付を指定して送ったが

返事は無視されて

その指定日が終わった翌日

しらじらしく

+メッセージが入っていた

まあ

らしいな

とは

思った

クリスマスの時期は

慌ただしかったので

とくに

連絡しなかった

すると

25日のクリスマスの朝

メリーナから

動画のクリスマスメッセージが

送られていて



それを

当日の夜に見た

2分程度の動画だった

メリーナにしては珍しい

嬉しかった

すぐに、お礼の+メッセージを送った

メリーナは

新しく、

立川で

アルバイトを始めたと

言っていた

アルバイトと言っても

夜の店のようだった

俺は

メリーナから

来てよ！

と、言われたので

詳細を聴いたが

結局、

メリーナに

別れを告げた

俺は恋に向いていないのだ

こちらから掴んだ縁は切らない、も死んだ

別れさせたのは、神だった

俺は、神を愛したいのに

メリーナのことが、足かせになっていたからだ

別れたあとは、スッキリしていた

これで、神だけを愛せる

もう、付き合う女なんて懲り懲りだ

やめて、神だけを愛そう

よって、メリーナは最後の女になった

返事が遅いのもあったけど、それじゃない

俺は、神だけを愛したかったんだ、それが理由だ

1月の初めに、メリーナは、去っていった...

「完」